慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	内田弥八の碑
Sub Title	
Author	会田, 倉吉(Aida, Kurakichi)
Publisher	三田史学会
Publication year	1964
Jtitle	史学 (The historical science). Vol.37, No.3 (1964. 11) ,p.50(292)- 50(292)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	余白録
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19641100-0050

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

内田弥八の碑

過日、知り合いの徳島県立穴吹高等学校長新垣宏一氏から「芳谿内田弥八之碑」の写真と拓本をおおくりいただいた。

内田弥八は「義経再興記」（明治十八年二月刊）の著者として知られる人で、源義経はジンギス汗だという同書の論旨は世人の共感を多く呼び、たちまち往年のベストセラーになったといわれている。しかも、それを書いたのがまだ慶応義塾在学中のことで、内田は明治十六年一月十七日に慶応義塾に入学し、四年後の同二十年四月に正科を卒業しているのである。そして、その間に福沢先生に知己を得、その愛顧をうけた模様で、この碑にも先生は内田の短命をいたんだ一文をしたためておられる。

碑は内田の出身地である同県三好郡辻町西井川にあって、佃駅の西約一五〇メートルほどのところに立っているということであるが、さきにその所在を知って調査方をお願いしてあったものである。写真で見ると、小高く土盛りした上にたち、縦一七〇センチ、横九五センチのかなり大きな碑であることが拓本で察しられる。

次に、碑誌の全文をかかげておこう。前半は内田が死にのぞんでみずから草したものであり、後半が福沢先生の筆になる碑文で、先生のものとして、これは「福沢諭吉全集」にも未収の新資料である。

芳谿内田弥八之碑

内田弥八号芳溪天資磊落不事父母営家産未報恩人竊脱至大坂為商家僕三年始志学業在東都大阪之間修漢学数年見世将欧化入慶応義塾脩英学有年業未半而記述義経再興記当時大行于世得数千金其後卒業而退塾遊支那印度濠洲其志在増進彼我之貿易也及至濠洲罹病在彼地療病十越月尚不愈帰途上陸於諸港養体与心千辛万苦終得帰父母之国然病日加重遊摂津須磨浦及豆州熱海雖加養不怠天命無如何明治廿四年一月十六日夜訂髪沐浴正衣服依臥榻如眠長逝享年三十無妻子　臨死自記

内田氏の慶応義塾に在るや余は最も之を親しみ其業を卒るの後伴ふて上国地方を漫遊したることもあり素志大にして凡ならず其支那印度に行くを聞き実業上必ず大に成すことあらんと期したりしに不幸短命にして逝く其人の為に悲むのみならず国の為に之を惜む其臨死自記の碑文の如き世間稀有の事にして余は之を一読しても氏の気力の非凡なるを知ると共にます〳〵惆悵の情に堪へさる者なり明治二十六年四月四日福沢諭吉涙を揮て記す

土井芳年刻

正五位勲四等巌谷修題額

（会田倉吉）